

四半期報告書

(第9期第1四半期)

四半期会計期間 自 平成24年4月1日
至 平成24年6月30日

セガサミーホールディングス株式会社

(E02475)

四 半 期 報 告 書

- 1 本書は四半期報告書を金融商品取引法第27条の30の2に規定する開示用電子情報処理組織(EDINET)を使用し提出したデータに目次及び頁を付して出力・印刷したものであります。
- 2 本書には、上記の方法により提出した四半期報告書に添付された四半期レビュー報告書及び上記の四半期報告書と同時に提出した確認書を末尾に綴じ込んでおります。

目 次

	頁
【表紙】	1
第一部 【企業情報】	2
第1 【企業の概況】	2
1 【主要な経営指標等の推移】	2
2 【事業の内容】	2
第2 【事業の状況】	3
1 【事業等のリスク】	3
2 【経営上の重要な契約等】	3
3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】	3
第3 【提出会社の状況】	7
1 【株式等の状況】	7
2 【役員の状況】	8
第4 【経理の状況】	9
1 【四半期連結財務諸表】	10
2 【その他】	24
第二部 【提出会社の保証会社等の情報】	25

四半期レビュー報告書

確認書

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成24年8月9日

【四半期会計期間】 第9期第1四半期(自 平成24年4月1日 至 平成24年6月30日)

【会社名】 セガサミーホールディングス株式会社

【英訳名】 SEGA SAMMY HOLDINGS INC.

【代表者の役職氏名】 代表取締役会長兼社長 里 見 治

【本店の所在の場所】 東京都港区東新橋一丁目9番2号 汐留住友ビル

【電話番号】 03(6215)9955(代表)

【事務連絡者氏名】 上席執行役員管理部長 吉 澤 秀 男

【最寄りの連絡場所】 東京都港区東新橋一丁目9番2号 汐留住友ビル

【電話番号】 03(6215)9955(代表)

【事務連絡者氏名】 上席執行役員管理部長 吉 澤 秀 男

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第 1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第 8 期 第 1 四半期 連結累計期間	第 9 期 第 1 四半期 連結累計期間	第 8 期
会計期間	自 平成23年 4 月 1 日 至 平成23年 6 月 30 日	自 平成24年 4 月 1 日 至 平成24年 6 月 30 日	自 平成23年 4 月 1 日 至 平成24年 3 月 31 日
売上高 (百万円)	65,331	69,980	395,502
経常利益 (百万円)	3,278	4,686	58,164
四半期(当期)純利益又は 四半期純損失(△) (百万円)	△2,224	2,544	21,820
四半期包括利益又は 包括利益 (百万円)	2,438	△935	29,656
純資産額 (百万円)	283,057	284,164	296,376
総資産額 (百万円)	420,165	471,925	497,451
1 株当たり四半期(当期) 純利益又は四半期純損失 (△) (円)	△8.84	10.17	86.73
潜在株式調整後 1 株当たり四半期 (当期)純利益 (円)	—	10.14	86.54
自己資本比率 (%)	64.8	59.4	58.9
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	△31,236	7,597	38,023
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	15,164	31,104	△59,012
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	△7,066	△7,060	914
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 (百万円)	143,163	177,393	146,599

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3. 潜在株式調整後 1 株当たり四半期純利益については、第 8 期第 1 四半期連結累計期間においては 1 株当たり四半期純損失であり、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第 1 四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）において営まれている事業の内容に重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の異常な変動等、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」について重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

2 【経営上の重要な契約等】

当社または連結子会社	契約会社名	契約内容	契約締結日	契約期間
当社	Paradise Co., Ltd.	韓国仁川市エリアにおけるカジノを含む複合型リゾート施設の企画・開発・運営を行う合弁会社を設立する旨の合意	平成24年5月11日	合弁会社が存続する限り有効

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期報告書提出日現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、長期化が見込まれる電力供給不足への対応や、欧州を中心とした世界的な金融市場の混乱の影響などにより、先行きが不透明な状況となりました。

このような状況の中、遊技機業界におきましては、パチンコ遊技機の入替はやや低調に推移したものの、パチスロ遊技機においては、パチンコホールでの稼働回復や設置台数の増加がみられ、引き続き市場が回復傾向にあります。

アミューズメント業界におきましては、主にプライズカテゴリーに牽引される形で市場が堅調に推移していましたが、今後の市場活性化に向けては、多様化する顧客ニーズに応じた、斬新なゲーム機の開発、供給等が期待されています。

家庭用ゲーム業界におきましては、欧米における厳しい経済環境の影響によって、主にパッケージゲームの需要が低調に推移いたしました。一方で、SNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)やスマートフォン向けなどのデジタルゲーム市場における需要が拡大しており、このような市場環境の変化への対応が求められています。

このような経営環境のもと、当第1四半期連結累計期間における売上高は699億80百万円(前年同期比7.1%増)、営業利益は54億15百万円(前年同期比82.4%増)、経常利益は46億86百万円(前年同期比42.9%増)、四半期純利益は25億44百万円(前年同期は四半期純損失22億24百万円)となりました。

平成24年5月11日に、韓国において観光サービス事業等を行っているParadise Groupと、韓国仁川市エリアにおける、カジノを含む複合型リゾート施設の開発事業について、当該プロジェクトの企画・開発・運営を行う合弁会社を設立することについて合意いたしました。なお、当該合弁会社の設立は完了しております。

また、当社は、平成24年5月31日開催の取締役会において、自己株式の取得について決議いたしました。平成24年6月7日から平成24年9月28日までを取得期間とし、取得する株式数の上限を10,000,000株、株式の取得価額の上限を170億円としております。平成24年6月30日までの取得状況は取得株式数4,063,700株、取得価額63億2百万円となっております。

セグメント別の概況は以下のとおりであります。

《遊技機事業》

パチンコ遊技機事業におきましては、サミーブランド『ぱちんこCRガオガオキング』シリーズや『デジテンCR北斗の拳 有情(トキ)』並びにタイヨーエレクトリックブランド『CR龍が如く 見参!』シリーズ等を販売いたしました。当期主力タイトルの投入が下期に計画されていることにより、23千台の販売となりました。パチスロ遊技機事業におきましては、サミーブランド『パチスロ コードギアス 反逆のルルーシュ』や『アイドルマスターライブインスロット』並びに前期に発売したロデオブランド『パチスロ モンスターハンター』等の販売が堅調に推移した結果、パチスロ遊技機全体では、前年同期実績を上回る80千台の販売となりました。

以上の結果、売上高は337億94百万円（前年同期比12.8%増）、営業利益は78億47百万円（前年同期比9.8%増）となりました。

《アミューズメント機器事業》

アミューズメント機器事業におきましては、前期に発売した『StarHorse3 Season I A NEW LEGEND BEGINS.』を継続して販売したほか、カード等の消耗品の販売が堅調に推移いたしました。また、レベニューシェアタイトルの稼働による配分収益が引き続き堅調に推移いたしました。

以上の結果、売上高は89億66百万円（前年同期比9.4%増）、営業利益は2億1百万円（前年同期比26.8%増）となりました。

《アミューズメント施設事業》

アミューズメント施設事業におきましては、前期に引き続き既存店舗の運営力強化を行いました。主にプライズカテゴリーに牽引される形で比較的堅調に推移した前年同期からの反動により、セガ国内既存店舗の売上高は、前年同期比94.6%とやや低調に推移いたしました。

国内においては、当第1四半期に2店舗の閉店を行い、一方で新規出店を1店舗行った結果、当第1四半期連結会計期間末の店舗数は240店舗となりました。

以上の結果、売上高は100億12百万円（前年同期比8.6%減）、営業利益は4億28百万円（前年同期比32.6%減）となりました。

《コンシューマ事業》

コンシューマ事業におきましては、パッケージゲーム分野において、『London 2012』などの販売を行いました。構造改革の施策の一部として、タイトル数の削減を実施していることから、パッケージ販売本数は、米国40万本、欧州70万本、日本23万本、合計134万本となり、前年同期実績を下回りました。

一方で、携帯電話・スマートフォン・PCダウンロード等のデジタルゲーム分野におきましては、スマートフォン向けタイトル『KingdomConquest（キングダムコンクエスト）』が、2012年6月に累計で300万ダウンロードを突破するなど、引き続き好調を維持しております。その他にも、『SAMURAI & DRAGONS』、『サカつくS』、『ミクフリック』をはじめとした複数のタイトルの投入を行っております。

また、携帯電話・PC向けパチンコ・パチスロゲームサイトにおいては、従量課金サービス等が堅調に推移したほか、スマートフォン対応版『777townSP』の取り組みを強化しております。

玩具販売事業におきましては、『アンパンマン おしゃべりいっぱい！ことばずかん』などの定番商品の販売は好調に推移いたしましたが、玩具販売事業全体は低調に推移いたしました。

アニメーション映像事業におきましては、番組販売などが堅調に推移いたしました。

以上の結果、売上高は150億95百万円（前年同期比6.9%減）、営業損失は15億59百万円（前年同期は営業損失38億56百万円）となりました。

コンシューマ事業につきましては、事業の収益改善及び成長軌道への回帰を実現するために、欧米市場におけるパッケージゲーム分野を担当する組織を合理化し、安定的に収益を創出できる体制を構築することを決定しております。本件に伴い、主に欧州における拠点の閉鎖及びタイトル数の絞込み等を行っております。今後は、外部ディストリビューターを活用することにより、固定費の削減を図るとともに、確固たる収益が期待される有力なタイトルの販売に注力し、収益力の改善を図ってまいります。

また、株式会社セガは、デジタルゲーム分野の強化を目的として、平成24年7月2日に株式会社セガネットワークスを設立し、環境変化に適応した体制への転換を図っております。なお、平成24年7月4日にデジタルゲーム分野における当期主力タイトルの『ファンタシースターオンライン2』が正式にサービスを開始しており、好調に推移しております。

(2) 財政状態の分析

(資産及び負債)

当第1四半期連結累計期間におきましては、売上債権の減少等により、流動資産は318億8百万円減少いたしました。一方で、遊技機事業における新工場建設に伴う固定資産が増加したこと等により、固定資産は62億81百万円増加いたしました。この結果、当第1四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ255億26百万円減少し、4,719億25百万円となりました。

(純資産)

当第1四半期連結累計期間での四半期純利益を計上した一方で、配当金の支払による株主資本の減少やその他有価証券評価差額金が減少したこと等により、当第1四半期連結会計期間末における純資産は、前連結会計年度末に比べ122億11百万円減少し、2,841億64百万円となりました。

(財務比率)

当第1四半期連結会計期間末における流動比率は、前連結会計年度末に比べ34.1ポイント増加の281.6%となり、引き続き高水準を維持しております。

また、当第1四半期連結会計期間末における自己資本比率は、前連結会計年度末に比べ0.5ポイント増加し、59.4%となりました。

(3) キャッシュ・フローの状況の分析

当第1四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物の残高は、前連結会計年度末に比べ307億93百万円増加し、1,773億93百万円となりました。

当第1四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況は以下のとおりです。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

税金等調整前四半期純利益49億83百万円を計上し、売上債権が364億65百万円減少した一方で、仕入債務が229億19百万円減少したこと、法人税等につき105億60百万円の支払いを行ったこと等により、当第1四半期連結累計期間における営業活動によるキャッシュ・フローは75億97百万円の収入（前年同期は312億36百万円の支出）となりました。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

有形固定資産の取得により57億99百万円、金銭の信託の取得により58億0百万円をそれぞれ支出した一方で、有価証券の償還により420億円の収入があったこと等により、当第1四半期連結累計期間における投資活動によるキャッシュ・フローは311億4百万円の収入（前年同期は151億64百万円の収入）となりました。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

配当金の支払（少数株主への配当金を含む）により49億61百万円、自己株式の取得により63億14百万円をそれぞれ支出したこと等により、当第1四半期連結累計期間における財務活動によるキャッシュ・フローは70億60百万円の支出（前年同期は70億66百万円の支出）となりました。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、当グループの事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(5) 研究開発活動

当第1四半期連結累計期間の研究開発費の総額は81億91百万円であります。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

① 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	800,000,000
計	800,000,000

② 【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成24年6月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成24年8月9日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	266,229,476	266,229,476	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数は100株でありま す。
計	266,229,476	266,229,476	—	—

(注) 提出日現在の発行数には、平成24年8月1日からこの四半期報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は、含まれておりません。

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成24年6月30日	—	266,229,476	—	29,953	—	29,945

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができませんので、直前の基準日である平成24年3月31日の株主名簿により記載しております。

① 【発行済株式】

平成24年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 15,194,800	—	単元株式数は100株であります。
完全議決権株式(その他)	普通株式 248,674,800	2,486,748	同上
単元未満株式	普通株式 2,359,876	—	—
発行済株式総数	266,229,476	—	—
総株主の議決権	—	2,486,748	—

(注) 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式が12,900株(議決権129個)含まれております。

② 【自己株式等】

平成24年3月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) セガサミーホールディング ス株式会社	東京都港区東新橋1-9-2	15,194,800	—	15,194,800	5.70
計	—	15,194,800	—	15,194,800	5.70

(注) 1 株主名簿上は、株式会社セガ名義となっておりますが、実質的に所有していない株式が140株(議決権1個)あります。

なお、当該株式は、上記「発行済株式」の「完全議決権株式(その他)」及び「単元未満株式」欄に含まれております。

2 平成24年6月30日現在の所有自己株式数は、19,265,415株であります。

2 【役員の状況】

該当事項はありません。